

# チョーライ病院向け病院運営・ 管理能力向上支援プロジェクト

2019年2月

## 1. 橋本理生短期専門家による人工呼吸器早期離脱のための安全管理セミナーの開催

医療安全/看護管理 森山 潤

2019年12月23日から12月29日の日程で、橋本理生短期専門家(呼吸管理・チーム医療)が、派遣されました。

現在プロジェクトでは、人工呼吸器の安全管理として、多職種で構成される呼吸器サポートチーム(RST)を支援しています。RSTは順調に展開しており、2019年からは人工呼吸管理を実施する全12病棟へ展開します。

今回の派遣では、人工呼吸器の安全管理や早期離脱に向けた管理能力の強化を目的として、チョーライ病院の医師・看護師を対象にセミナーを実施しました。



患者の鎮静管理方法に関する講義



積極的に質問する参加者

橋本医師はNCGMにおけるRST活動の取り組みや人工呼吸器を装着した患者の鎮静の評価方法などを紹介しました。感染管理部長のThang医師は2018年から導入されたVAPケアバンドルの実施状況や人工呼吸器離脱のプロトコルを紹介しました。呼吸器内科のNam医師は、RSTのメンバーとして、院内での安全管理の改善結果を報告しました。セミナーには、チョーライ病院の医師、看護師の他に学生や他病院の医師を含む50名が出席しました。

## 2. 肺癌診療連携会議(Tumor Board for Lung Cancer)について

プロジェクトでは、多職種チーム医療の一環として、肺癌診療連携会議(Tumor Board for Lung Cancer)を支援しています。呼吸器内科、胸部外科、病理解剖科、化学放射線治療科、総合計画部が中心となり、診断や治療が困難な患者に対して、それぞれの専門性を基に最善の治療方針を検討します。10月から開始し、これまでに7回実施されました。橋本理生医師は、Tumor Boardに出席し、Tumor Boardの運営方法や正確な診断のためのアドバイスをを行いました。



画像所見を基に協議するメンバー

独立行政法人 国際協力機構(JICA)

チョーライ病院向け病院運営・管理能力向上支援プロジェクト

事務所: 10F, Block D, Cho Ray Hospital, 201B Nguyen Chi Thanh, District 5, Ho Chi Minh City, Viet Nam

Tel: 028 3620 5032 (直通) E-mail: chorayjica@gmail.com

ホームページ: <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/044/>

### 3. 吉本民樹医師によるNCGM国際臨床フェロー研修

NCGM医師 吉本民樹

国立国際医療研究センターが実施する国際保健課題に取り組むことができる若手医師育成を目的とした国際臨床フェロープログラムの一環として、チョーライ病院におけるJICAプロジェクト活動の、主に医療関連感染対策に取り組みました。

チョーライ病院を訪れるのは今回で3回目で、1回目は2017年12月に2週間、2回目は2018年9月～11月に約3ヶ月間、活動を行いました。今回は2019年1月に約3週間かけ、これまでの活動のフォローアップと自身の活動の総括を行いました。

今まで様々な長期専門家の活動に関わり、JICAの活動に関しての理解を深めつつ、ベトナムにおける医療関連感染の現状と問題点について学んできました。中でも特に、人工呼吸器関連肺炎ケアバンドル遵守の質的調査や手術部位感染サーベイランス結果の詳細解析などに深く関わりました。いずれも非常に重要な医療関連感染であり、黒須専門家やチョーライ病院の感染制御部メンバーとこれまでの現状とこれからの対策について議論を行いました。本プロジェクトとチョーライ病院に少しでも貢献できる活動ができたことはとても良い経験でした。

未来の国際保健を担う医療者として成長できるよう、これからもチョーライ病院での経験を忘れず、努力を続けたいと思います。



感染制御部長Dr. Thang氏との打ち合わせ



中央滅菌材料部開所式への参加

#### またお会いしましょう！

(前) 業務調整 松本 丞史

12月19日、2年間の任期を終え、離任帰国いたしました。

2016年12月、他の専門家に先駆けて単独で着任し、初めてチョーライ病院を訪れ、カウンターパートの皆様に着任挨拶をしたことはまだ昨日のことに思い出されます。

それ以来、本プロジェクトで活動する中、チョーライ病院の皆様のご我々日本人に対する厚い信頼と友情を常に感じながら、過ごしてきました。



プロジェクト事務所にて



看護部の皆さんと

この信頼と友情は、50年に及ぶチョーライ病院と日本側の双方のたくさんの先人たちによる努力の賜物であることを忘れてはならないと思っています。

そして、私も、その歴史の中に、少しではありますが、関わることができたことを非常にうれしく、誇りに思っています。

この機会をお借りして、あらためまして、チョーライ病院の皆様、専門家の皆様、関係機関の皆様のご支援に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ヘンガップライ(またお会いしましょう)！

2019年1月、日本より